

大正七年

(二月)

母幾野 五十年  
弟重威 一周忌  
岩田氏 三年  
清水初 三年

(二月一日〜十二日、記載ナシ)

一月十三日 庚申 日曜

来客、津田栄子、万里小路伯。此夜、小包物拵にて大困(混)雑、九軒え。

一月十四日 辛酉 月曜

課業如例。十七軒え書状出ス。小包九軒え。

一月十五日 壬戌 火曜 晴。

休業。朝、明々堂、眼の左に曇を生したるに付、**眈★**(目十察)を乞候処、眼中網膜に血の披烈したるあり。井深に申聞候二付、ネウの試験と其外よく**眈★**(目十察)を乞と云事にて、同夜、井深氏来りて、よく、**眈察**をしたり。身体年に似合ぬふとり加けん也。静座をやめて、タンパク物を食し、肉類ハ断然やめよと云。

須田氏初診

\***眈★**(目十察) (眈察) \*披烈(破烈) \*ネウ(尿) \***眈★**(目十察) (眈察)  
\*加けん(加減) \*静座(正座) \*タンパク物(蛋白質)

一月十六日 癸亥 水曜 晴。

課業例の如し。

(二月十七日、十八日、記載ナシ)

一月十九日 丙寅 土曜

朝、稽古済。本日の新年会準備して、午五時より続々来客。三十分より清鳳太閤記十段目、次にお静麗三と二席。来客、大掲さい、此時停電三十分位。下座敷にて食事。寒さの折から二付暖きものとして、もゝ子真苦可思。客三十名也。みなよく御酒もすすみて面白く大機

嫌にて晚餐済て福引大はつみ。十一時漸済。

\*清鳳太閣記(清鳳太閣記) \*麗三(礼三) \*大掲さい(大喝采) \*真苦(辛苦)

一月廿日 丁卯 日曜 晴。

一月廿一日 戊辰 月曜 晴。  
課業畢る。

(二月廿二日、記載ナシ)

一月廿三日 庚午 水曜 雪。

朝、課業畢る。十一時、明々堂二行、診察を乞。院長、眼の方ハよほとよくなりたれと安靜に臥蓐よろしくと云、小水一日中に何からむと云分量を計る事。

\*何からむ(何グラム)

一月廿四日 辛未 木曜 晴。

教授を休て専ら安靜に臥蓐す。

竹田氏。

一月廿五日 壬申 金曜 晴。

臥蓐。

一月廿六日 癸酉 土曜 晴。

臥蓐。泉会新年会、一寸出席ス。

余興、富岳 講談、山内一豊妻 外。筑前琵琶。荒木古堂 尺八、今井慶松 琴、三弦 山室千代、三曲、御国の光、松竹梅。

畢而福釣余興。食事、夜二入たり。

一月廿七日 甲戌 日曜 晴。

病臥す。

一月廿八日 乙亥 月曜 雪、晴。

始て雪積る事三寸。水昌の気色となる。嬉しとも嬉し。是初雪也。姉小路延子、津田栄子。竹田氏。

\*水昌(水晶)

一月廿九日 丙子 火曜 晴。  
火曜稽古、休業ス。

(二月卅日、記載ナシ)

一月卅一日 戊寅 木曜 晴。

東風に香をとめて鶯の初音哉  
東風やたんほすみれも笑ひ出し

風光る

文机の蒔絵の桜に風光る  
心葉の梅も香はし風光る  
薄絹のかつきの下や風光る

春風

荷車や夫婦一ぶく春の風

の

春風や芽はる柳も水かゝみ

春の朧月

や

月朧々遊女の花の散ころろ  
笛の音も遠くなり行朧月

こめて

霞たちて日川の森か鈴の音  
摘草の子供の声やたつ霞

雛祭

娘より母のはつ雛祭り哉

桃柳むつひたちたる

神ひゝな かな

雛まつり

春の水温む

水温む川上の花や流れくる

水温むおたまじやくしの占領池

梅月

月に陰アリ梅さく庭に二人連

誰家の笛か梅月の清き夜に

\*神ひゝな (紙ひゝな)

(二月)

二月一日 己卯 金曜 晴。  
井深氏来る。

二月二日 庚辰 土曜 晴。  
臥蓐ス。夜、横浜原安子、御病氣見舞に來られて驚々のよし也。  
原氏病氣見舞、百円。

二月三日 辛巳 日曜 晴。  
朝、閑院宮様より御老女御使にてわか病氣御あんし被遊候て御見舞戴く。病床にて御目にかゝり容体申上候。須田氏え院長の診★(言十察)を乞ふ。來客、大塚照世、姉小路伯、跡見正子。午下四時、小雨。夜、玉枝来る。已而晴。節分豆まき賑はしく。  
木太刀七年分、二円。

\*診★(言十察) (診察)

二月四日 壬午 月曜 晴。  
容体變りなし。井深氏来る。  
入、中村清半年分、謝。入、佐藤柳子二ヶ月分、三円。

二月五日 癸未 火曜 陰。  
容体變らなし。黒田侯御使來り、御見舞御菓賜はる。安藤子御使にて鶏卵一箱。笹川菊子來、草花二鉢御見舞。名古屋中村清子、佐藤柳子、紘地預ル。尾田、菓子。さゝ木、鶏卵。田村長子、菓子。井上八重子、浴用蔘精一本、洋草花。中村寿子、菓子。細田細君、真綿。長谷川千賀、阪東錫子、見舞、おた福豆一箱。この兩人と寿子ともゝ子五人にて夕食ス。  
\*名古屋(名古屋) \*さゝ木(佐々木)

二月六日 甲申 水曜 雨。昨夜より春雨の如く細雨にて有難し。先終日。夜に入てはげし。  
容体變りなし。床をはなれて神前、仏前払清めて、平生の如く盆栽などの水を遣りて運動す。見舞客、城氏 肥後あめ、土井、橋本艶子 御菓子。夕景より弘來りて晚餐を共にす、十時比迄。井上氏より(の)浴湯蔘を入れて入浴す。

二月七日 乙酉 木曜 晴。朝より雨晴たり。  
朝、弘氏來り。要用ありてなり。昨夜より今朝にかけて下痢四度あり。城氏。森竹。さゝ

木。某。戸谷、カステイラ。万里伯、今夜京都御出発。少々幸子さま御所勞之趣也。夜中  
大下痢ありたり。

群馬県剣持せつより羊羹廿本箱入着。

入、一月より半季中村清、九円也。入、佐藤柳一、二(月)分、三円。出、南画集半年分、  
六円五十(錢)。

\*さゝ木(佐々木)

二月八日 丙戌 金曜 晴。

石山威、橋本太吉氏。秋田千田氏より、バナ、煎餅一箱着。  
シクラメン、シネラリヤ。

二月九日 丁亥 土曜 晴。

朝、中野泰、大東氏、石山操。山田富枝、玉子一籠。笹川種郎妻、蒸菓子。田中三保子、  
洋菓子二箱。岩浪稲子、菓子。

二月十日 戊子 日曜 陰。

齋藤仁子、そは粉、大福餅。跡見玉枝、白魚。跡見弘。津田よし子。宮原六之助、かに三  
疋。

万里小路幸子薨去。本日午前一時四十八分電報、下鴨。

二月十一日 己丑 月曜 晴。

職員一同より蓄音器五磬。寄宿職員四人より蓄音器四磬。中村芳子、洋菓子一箱。中野正  
子。齋藤菊寿。

竹田氏、一人。

\*五磬(五盤) \*四磬(四盤)

二月十二日 庚寅 火曜 晴。

朝、須田氏へ行、眼の眈★(言十察)を乞。よほとすへてかよろしきと申されたり。帰途、  
井深氏えより容体申入候。伊藤涼子来、羊羹一葉。若旅しま子、小包にて麦落雁一箱。佐々  
木豊子、与平すし二重。東京社鷹見、カステイラ一箱。茂木恒子使、松魚五円、帛紗、鶴  
の子一箱。山尾三郎忌明。厚徳会より蓄音器十五枚。

竹田氏、二人。李子、午下九時之汽車にて京都に行。正子来り滞在ス。  
出、茂木氏使え一円。出、佐々木豊使え五十錢。

\*眈★(言十察) (眈察) \*与平(与兵衛)

二月十三日 辛卯 水曜 晴。

井上角五郎、虎屋蒸菓子大箱。秋元光子、河村晴子、蒸菓子。武敏子、カステイラ。マグダレン、蟹三疋。長尾収氏。手塚氏。伊藤、野菜物。山方。泰、りん子。山口県高森町井上憲え。

村井孝子え病氣見舞、虎屋蒸菓子送ル。

○井深氏。

出、蝙蝠傘仕直し、四円五十銭。五円為替却し代書留、十銭。鳴一羽却し代、十二(銭)。紙筒却し代、十二(銭)。

\*りん子(林檎)

二月十四日 壬辰 木曜 晴。夜細雨、又雪。

清水照子、光子、玉子一箱。茂木松子使坂本、洋菓子。津田栄子晚餐を共にす。夜、朝倉、井上、春木、畑中、見舞に来る、九時迄。電報、李子十五日帰れぬ。

竹田氏、一人。  
出、帯どめ二本、安八、九十銭。

二月十五日 癸巳 金曜 晴。

波多野花涯、見舞状。佐文利氏細君、玉子一籠。北村キン、見舞。寺田善左衛門、三五郎より病氣見舞状。菓鴨速水貞子より見舞状。今夜、井上、朝倉、青木にて蓄音器聞かせくれ候。

\*菓鴨(菓鴨)

二月十六日 甲午 土曜 晴。

中島先生より大梨子。尾田氏より、すもし。京都李子より皇后宮よりの御菓子。御料理、酒井伯より。城氏。門馬氏。津田栄子、子供三人。浦四三子、木太刀二冊、羽丹、シソ一瓶。

\*羽丹(雲丹)

二月十七日 乙未 日曜 晴。

朝八時半、李子より電信着。九時東京駅着の事二付大はわて、とと角中天駅迄車と銀をさし出し候。十時無事帰宅。先々安心々々いたし候。来客、土井早苗、高橋寿吉 羊羹一箱、別府徳子 干菓子、万里小路芳房。

\*大はわて(大あわて) \*とと角(とに角) \*中天駅(中央駅)

二月十八日 丙申 月曜 晴。

宍浦和子見舞状。兵庫小林澄子見舞状。午下五時より急に下痢はしめ、腸のいたみ甚しく、実にくるしき限り也。李子も来りて井深氏を呼。早速来りて、こんやくにて腹部をあたく

め、下え行、五度の(ママ)つゝけとん服を服して、勿一服にていたみやみ、下痢も先々やみて一息いたし、大ぬに安心ス。正子、午下四時帰、靖子と共に。

\*つゝけ(続け) \*とん服(頓服) \*勿(忽) \*いたみ(痛み)

二月十九日 丁酉 火曜 晴。

志賀清子、玉子一籠。神戸佐々木静子より灘方の菱形三箇入でんふ(田麩)類。佐々木え返事ス。

竹田氏、二人。

二月廿日 戊戌 水曜 晴。

小林易太郎より羊羹一箱。来客、橋本町子菓子一箱、長尾収一。大坂南河内郡三日市村高岸宗一より書至、即返書。

出、きみえ渡ス、七円。同、豆腐、三銭。

二月廿一日 己亥 木曜 晴。

来客、美の部嬉子、カステイラ一箱。同、米倉千賀、蒸菓子一箱。同、増田小登美、菓子単子(箆笥)共。同、鎌田氏。秋田庄司兵蔵より小石類。夜具かい巻かけ蒲団共出来、こたつなしにてあたゝかく臥。

\*美の部嬉子(美濃部嬉子)

二月廿二日 庚子 金曜 晴。

酒井喜美子夫人より西京かきかえ一罐。来客、長谷川千賀子、梨子、竹の子一籠、土井早苗御枕敷、料理一箱。同、山尾末子。同、深川区吉永町六神山安子、カステイラ、中野跡見寿子。

\*一罐(一カシ)

二月廿三日 辛丑 土曜 雨。細雨、已而止。

来客、跡見泰、葡萄一籠、棚橋あや子、蒸菓子一箱、増田浪江、夜の梅、中村芳子、洋草花、大島静子、洋草花、酒井伯矢来、一塩もの、山尾末子、蒸菓子一。万里小路幸子様二七日二付、御祭り申上ル。李子病氣二付臥蓐ス。

竹田、二人。

二月廿四日 壬寅 日曜 晴。

朝、明々堂二行。診★(言十察)を乞ふ。眼病ハよき方ながら二月中にて全快に至らず、先三ヶ月と云。来客、姉小路公正伯、宮原六之介、果物一籠、多豊尾菓子、大島長江、静子菓子、武敏子、甘鯛塩もの、山崎静子、交肴、大炊晨子、鶏肉、うどん。葉山御用邸千種典侍さまより御返事。

\*診★(言十察)(診察)

二月廿五日 癸卯 月曜 晴。

李子、起て見る。未たよろしからず。梶山、江戸土産一箱。佐藤千賀、干菓子一箱。酒井伯原町、鮎かす漬一箱。石神村千代子供つれて野菜物数々。斎藤菊寿氏より水戸殿中二箱。藤田実子え、中村清子え、唯専寺え。

入、二月分謝金、五十円。出、石神井村千代え一円

\*石神村(石神井村)

二月廿六日 甲辰 火曜 晴。

朝、井深氏。青木恒子母とみ子、新海苔と菓子。橋本静水、菓子。酒井喜美子、小鳥の翹つけ一重。山崎静子。名古屋や吉川有年書状、漬物らしき物、画の依頼二付、直二返却。竹田氏、二人。葉山有栖川宮順より御返事。

出、米、呉服友仙、八円五十(銭)。

\*名古屋(名古屋) \*友仙(友禅)

二月廿七日 乙巳 水曜 陰。

来客、角田栄子 鯛てんぷ、中村芳子 人形三箇、安井 大坂すし一箱。石山威よりもゝと菜の(ママ)、小米さくら。角田辰男え白羽二重一反。いつみ子え娘人形箱入、祝。

高取、潤筆、十円。

二月廿八日 丙午 木曜 雪。終日ふり通したり。

村井久子一周忌志帛紗、三月三日。

出、竹田氏二月分、七円。出、人形代、五円九十(銭)。同、野沢綿や十三(円)五銭。

うき立や花の曙夕さくら

静まりし月夜桜の上野哉

花ほとに心うきたつ物あらし

いさきよき日本男子や花さくら

恰も好し花の上のゝ月の夜や

そもくゝや香くはしき名や山さくら

八十

八十山をやうく越て花の春

八十の手習ふ春や来りけり

優等賞



花と匂ふゆるしの文をいたゞくも雪と螢の光りなりけり  
露霜をしのきくてをしへ草世にこそかをれやまとなてし子  
み簾上てびんつらに花のちりかゝる

(三月)

三月一日 丁未 金曜 雪。晴。三寸余積る。

来客、大東主事、萩原祖母 蒸菓子。閑院宮妃殿下より病氣御尋ね戴く。津田栄子、孝と。  
大坂石井房子より見舞、真鯉一曲。  
井深氏。

出、井深氏御礼、五円。同、同、井深氏薬代、六円三五(銭)。同、島田弘、廿三(円)五  
九(銭)。

\*三五銭(三十五銭) \*廿三五九(廿三円五九銭)

三月二日 戊申 土曜 晴。

来客、海事協会有地男より河村高章 御見舞、御菓子、田中久子 入学ニ付懇願、菓子一箱。高田  
馬場より行と静来る。跡見玉枝より御菓子一重。

竹田氏、二人。

出、村井久子一周忌、二円五十(銭)。

三月三日 己酉 日曜 晴。寒甚、水道凍ル。

来客、川田綾子 玉子一籠、角田いつみ 初節句、赤飯一重、桜餅一重。閑院宮より御尋戴き小田原  
牛房(莠)、小芋一籠。須田氏へ行、**珍★**(言十察) 請る、よほとよろし、今迄通りの養  
生にて大事に教場へ出てもよろしと云。二週間毎に**珍★**(言十察) をうくへしと云。眼の  
くもりハ容易に取れかたし、長くかゝる。本日はしめて床上する。葉山御用邸千種典侍様  
より、あはひ五、海老十着。此夕、佐々木信綱博士来られて種々御咄しあり、四女の入学  
の事也。

出、角田使え、五十(銭)。同、閑宮様御使え、三十(銭)。目録封筒廿枚。

\***珍★**(言十察) (診察) \*請(受る)る \*二週間(二週間) \***珍★**(言十察)  
(診察)

三月四日 庚戌 月曜 晴。

劍持え海辺松の画小包にて出ス。来客、林里子、玉子。同、神代郁之進 カステイラ、梶山氏、  
新田妻 オし少々、正子、日下部米子 入学の子供連て。泰より駿ヶ蘭数株到来。  
出、きみえ渡ス、五円。

三月五日 辛亥 火曜 晴。春らしき日。  
来客、斎藤仁子、茂木栄子、丹羽恒子御礼に、植村広子 シネリア一鉢、橋岡門人今井善八郎  
入学断、大束氏 雲丹、海老一鐘。  
竹田、一人。

三月六日 壬子 水曜 雨。春雨いとよし。  
来客、長尾収一、尾田氏 鯛の花一箱、堀内 雉子二羽、見舞にあらず。井深氏。中野跡見え雉子二  
羽、小包にて出す。

三月七日 癸丑 木曜 雨晴定まらず。  
来客、中村幸子 菓子一箱、津田栄子 枕繻珍一。本日より教場え出る。

三月八日 甲寅 金曜 晴。  
来客、高木六太郎 菓子一箱、斎藤仁子 合作織一反、島田信子 すもし二重、中田かね 湯たんぼ、  
毛利安子さま 干物一籠、菓子一箱、大村小早川 菓子、干菓子、横浜古屋益世 小田原蒲鉾十枚、菓子、  
干菓子。津田より支那縮緬着。津田弘文。本日も教場え出ル。  
竹田氏、一人。

三月九日 乙卯 土曜 陰。  
来客（以下、記述ナシ）。房州いく子より書至。植木やより蘭（鉢）植来る。

三月十日 丙辰 日曜 雨。夜二入て大暴風雨となる。  
来客、田島ふみ 果物一籠、角田栄子 果物。跡見玉枝 干ふとう一箱。朝より李子、下瀬の病  
院へ行、御子さまを見て、三越へ行、買ものして帰。神戸佐々木静子より鯛の味噌積一桶  
着。

入、田島三月謝、二円五十（銭）。  
\*味噌積（味噌漬）

三月十一日 丁巳 月曜 晴。  
来客、大束主事、学校之件ニ付相談。中野より泰来たる。光円寺佐藤良海師、仏壇シフク  
ニ付、依頼之件也。

\*仏壇（仏壇） \*シフク（修復）

三月十二日 戊午 火曜 晴。  
来客、佐藤良海師仏壇屋を連来りて修復に持帰る。費金拾五円ト云。さゝ（佐々）木静、

書至。中野寿子、靖子。千葉鈴木泰子、アサリ一箱。井深氏来診、種痘する。予、李子と。三越松魚券、三十円。

\*仏壇(仏壇) \*さゝ木静(佐々木静)

三月十三日 己未 水曜 晴。

来客、土方久元伯女えり やはり入学の事ニ付御依頼なれと承諾断る、梶山氏 依田尚子結婚の御礼に。書至、多田操子より鯛の味噌漬一樽。九条家御使。

出、石神井千代え、一円。

三月十四日 庚申 木曜 晴。

酒井伯より御猟の鴨。来客、葉室伯、大炊御門師前君。晚餐を共にす。八時頃帰られる。竹田氏、二人。

三月十五日 辛酉 金曜 三ヶ月。晴。夕景より雨ふり出したり。

朝九時より快気祝、赤飯、松魚を配らせる、三方へ手分して夕方迄。来客、堀田伴子様 胡瓜、金五円、祝日ニ付祝飯を共にす、横浜古屋益世 生たて玉子、主事大東氏。

三ヶ月。

入、堀田伴子、五円、出、羽二重二丈、米え、九円五十(銭)。

三月十六日 壬戌 土曜 雨。終日雨ふり通したり。

朝より雨ながら快気祝。赤飯もみな出来てきた。本日は遠方のみいたし方にて大森、高輪、淀橋、橋場わたりえ遣したり。夜十時頃に使帰る。有約て跡見玉枝、棚橋絢子、板垣静子の三人、雨中ながら来られて私を慰めの素謡、第一、二人静、鉢木、三井寺、熊野にて畢、直二合のものを出す。十一時頃帰られたり。

三月十七日 癸亥 日曜 晴。朝雨ながら、午後漸晴れたり。

雨中ながら車にて須田氏え行、診★(言十察)を乞ふ。二週間目にてよほど血痕薄くなりたりけれ共、是迄通怠りなく養生専一と申されたり。帰途、井深氏え寄。先々快方の状申入たり。安藤様より御出生姫様朋子と御名命の御吹聴有たり。

藤井瑞枝より鰻の子みりん漬、ふき、山淑煎物と三曲。

\*診★(言十察)(診察) \*名命(命名) \*山淑煎物(山椒煮物)

三月十八日 甲子 月曜 晴。

朝より試験の面をみる。来客、橋本静水、閑院宮御息所より御使老女吉江来る 面会いたし候、斯波暉子、植村。当校にては生徒全部送別式ありて余興なども一、二、三、四生イ面白く出来たり。井深氏来診。

三月十九日 乙丑 火曜 晴。

閑院宮妃殿下の御下命によりて揮毫ものす。夜、玉枝来、閑談す。橋岡氏より病氣見舞、蒸菓子一箱。

三月廿日 丙寅 水曜 晴。風あり。

井深氏来診。

柳義藤氏より券、五円

三月廿一日 丁卯 木曜 彼岸中日。晴。

朝より祖先祭執行す。靖子、早苗来る。早苗一泊ス。来客安部基慶氏。此時、浅草青柳、仏壇洗濯、及金箔取直して持来る。能出来たり。夫より仏壇御尊像を掛、尽く裝飾かさり付する。

青柳、仏壇あらひ、十六円。

\*仏壇(仏壇) \*仏壇(仏壇) \*仏壇(仏壇)

三月廿二日 戊辰 金曜 晴。

朝より御宝前御給仕する。此朝、光円寺佐藤氏来られて仏壇裝飾成りたる二付、続経あり。実にかたき事也。来客、津田栄子。時、急に雨ふり雹大なるふり出して雷鳴もあり。暫時にして止。栄子帰。

水難救さい会七分分、七円。支那縮緬一反、十六(円)。小学校慈善興行一等入場券、三円。

\*仏壇(仏壇) \*続経(読経) \*水難救さい会(水難救済会)

三月廿三日 己巳 土曜 晴。

朝、卒業製作画百五十枚見畢。来客、津田弘視、上海より来り種々閑談ス。五年生真砂会より銀製鳩に古瓦露之模様置物と銀製一輪生寄贈ス。

竹田氏。

三月廿四日 庚午 日曜 晴。

小田原閑院宮姫宮様かたの御摘になりたるたんぼつくくし沢山に賜りたり。安藤朋子様え赤の紋羽二重と松魚御祝申上る。

出、使の物電賃、十銭。

\*物(者)

三月廿五日 辛未 月曜 雨。

本日は鎌田、城、春木、伊藤の学校解雇二付、総教員より送別会を催し、一同来校。午後

一時より食堂開けて御互に名残を惜みつゝ食事済。右四人え、予、李子より反物、帯地等を送る。津田、挙家午下四時汽車出発にて岡山へ行。塾生一同送別会。五年生え晚餐会を催し、四年生より料理すへてを拵へて、甘く奇麗に出来たり。送別会え寄贈、三円。

三月廿六日 壬申 火曜 晴。

前日の準備にていそかし。

下瀬氏使え、三十(銭)。

三月廿七日 癸酉 水曜 晴。天特別の晴朗。風もなく有かたし。

本年ハ始めて朝九時参集。一年、二年の脩業優等皆勤賞を与ふる式ありて一同退参。午後一時卒業式。一同式場に参集、例の如し。校長病後二付、代理人主事行ふ。証書授与ハ李子代理。来賓土方伯、演舌。次に角田氏。めて度式済。後、来賓、卒業生、おすし、菓子等にて賑々敷済。来客、清水連郎。井深氏。

角田氏使え、五十(銭)。

\*退参(退散)

三月廿八日 甲戌 木曜 晴。

朝、李子、陸軍大臣え参り、御面会を得て、石山基弘子の志願を願ふ。角田氏、土方氏え御礼に行。卒業生の謝恩会に行。午餐を饗せらる。習字教室にて弁松折詰二重、赤飯と外に菓子、果物。畢而塾の食堂にて余興、琴、三弦、手に入たるもの、かん心の外なし。五時済。李子、七時発車にて京都に行。

\*かん心(感、心)

三月廿九日 乙亥 金曜 雨。

通学五年生、昨日の仕舞事して、午下又塾にて琴、三弦をひく。余を慰むる為なり。朝七時無事着、もゝ子電報。郵便三銭券、九十(銭)。

三月卅日 丙子 土曜 雨。終日ふり通したり。

来客、紀州土井八郎兵衛娘利子、土井氏妹、川島伝之助妻勝子入塾願に来る。春木、今夜九時発にて帰省ス。中野正子此日より留守見舞に来る、一泊。竹田氏。

鳥田弘、十五(円)五十(銭)。

三月卅一日 丁丑 日曜 晴。春長閑なる日。

朝、須田氏へ行。少康なり。畑中解雇ス。

竹田氏。須田行。竹田氏八度、四円也。

井深珍★(言十察)料、五円、井深薬費四円七十(銭)。

春雨

春風

長閑

春の月

椿

落ち椿糸につなきてくびかざり

花

牡丹

女王なりとおもけにゆらく牡丹かな

やれ垣に花咲くや牡丹富貴なり

\*珍★(言十察)(珍察) \*くびかざり(首かざり)

(四月)

四月一日 戊寅 月曜 晴。

朝、予、正子と墓参する。はしめて歩行する。さしたるつかれもなく帰りたり。来客、柴

田きく子 卒業生、伯母と、椿尚子 其母と。電報、李子明朝九字半中天え着。

井深氏。

\*中天(中央)

四月二日 己卯 火曜 晴。

朝十時前、李子無事着。来客、角田栄子、主事大東氏、高木幸子娘喜代。此夕、弘、韓国より帰りて来、十一時頃帰中ス。

四月三日 庚辰 水曜 晴。

神武天皇祭。来客、多田華父直勝、関谷伸子母、中田喜久子母かね 此度入塾の生徒、丹羽富貴 此度雇入の人。中野正子、午後帰中ス。

入、中田喜久より、廿円。

四月四日 辛巳 木曜 晴。

来客、内海、吉川たま、西島梅、林里子娘と。京都より御簾着。相馬綾子妹雪子 其母と、佐藤柳子 中村氏と、石山基弘 吉亨と。本日より庭の花一、二輪つゝ咲はしめたり。竹田氏、二人、五円済。

入、相馬二人より、廿五円。竹田十度分、五円。佐藤柳子三、四（月）、三円。

四月五日 壬午 金曜 晴。

朝より、新期雇入たる教員西沢茂、安井トク、両人面会ス。田島蘭子、小林亀子、御礼に来る。鎌田氏。園祥子さま御紹介御文にて京都岩倉幡枝円通寺住職杉本全機来り、本堂再建二付、喜捨を願はれ、金三拾円之内廿円、即附ス。神戸神代幾之進来る。幡枝円通寺へ寄附、廿円。

\*新期（新規） \*神代幾之進（神代郁之進）

四月六日 癸未 土曜 晴。

朝八時より始業式執行。次に新人生入学式執行。中村元嘉氏より依頼二付、竹田氏を頼み、山根氏病氣二付、早速に出向られたり。

四月七日 甲申 日曜 雨。

来客、俵精一氏より娘入学頼に来る、内藤信子 其伯母と御礼に、深野愛子 其母と。

石井初子、松子、一月分月謝、三円。

四月八日 乙酉 月曜 晴。

本日より生徒体格試験執行。庭の桜花極満開、始めて外出する。閑院宮様えなにハともあれ御礼に参る。御息所、姫宮様かたに拝謁、久々に大く御満足被遊。黒田茂子様、御姫様も御参りにて、御庭の花実に満開、けふを盛りと存候。帰りには此辺の花を見つゝ、はしめて花の春都を花になり候。

四月九日 丙戌 火曜 晴。

本日より研究科稽古はしめする。来客、津田栄子。中野より正子も来る。本日ハ予の七十九回誕生日二付、御祝膳をこしらへて午餐を。

河むら八枝四月、二円五十（銭）。小倉加代一月分、一円。内藤信子四月分、二円。

\*河むら八枝（河村八枝）

四月十日 丁亥 水曜 雨。

世の中、花の真盛りに雨ふられて何となくさびし。

四月十一日 戊子 木曜 雨。

学校ハ体格試験本日にて全畢。来客、長尾氏来られて、こゝ一週間、半つき米に胡麻塩にて試し見るよろしと云、其事に従事ス。久米権九郎来る。  
竹田、二人。

四月十二日 己丑 金曜 雨。

朝より金曜の稽古始する。午下、学校見分ス。本日より授業はしまる。来客、岩浪稻、板東錫子。

四月十三日 庚寅 土曜 雨。

予、腸あしくて平臥ス。来客、久米民之介、見舞に来る。此夜、弘来、閑談ス。  
久米より、五円。

四月十四日 辛卯 日曜 曇。夜、雨。

朝、訃音、山根文策氏死去。直に李子行。

四月十五日 壬辰 月曜 晴。

朝、授業す。はしめて天晴わたりたり。晩氣に予、静子、すみ子を連れて白山下迄散歩してあねもね一鉢、種もの買て帰。御三方七箇廿日中に出来する。約束す。  
竹田氏。

あねもね一鉢、廿錢。草花の種、八錢。山根氏玉串、五円。

\*あねもね(アネモネ) \*あねもね(アネモネ)

四月十六日 癸巳 火曜 晴。

火曜の稽古する。来客、中野より寿子、津田栄子、五島万千代来る。  
竹田氏、二人。

田中みほ四月分、三円。植村広御手本、五円。同四月分、一円五十(錢)。

四月十七日 甲午 水曜 晴。

朝の教授なし。揮毫する。李子、山根氏告別式に参る。

四月十八日 乙未 木曜 晴。

課業例の如し。午下、揮毫ものス。来客、笹川臨風細君と娘倭文子、酒井すま子。

四月十九日 丙申 金曜 晴。

金曜会、稽古する。



竹田氏、三人。

四月廿日 丁酉 土曜 晴。

五年生稽古、十一日迄。正午より市村座に行、慈善芝居をみる。始而外出する。日本晴伊賀の水月、すけ巻助六、面白く見たり、久しふりで。

出、市村座切符二円九十(銭)。

\*すけ巻助六(あけ巻助六)

四月廿一日 戊戌 日曜 晴。

朝、須田氏へ行、診★(目十察)を乞ふ。よほどよく血昏の薄らきたりとして大に悦べたり。熊谷齋藤仁子より使来、草の餅下さる。李子は塾生一同をつれて玉川辺え摘草二行たり。夕景より神代夫婦、弘と来り、夕餐共にして種々語り合ひ、十時過帰。鶴子一泊。須田行。

入、日比野ふさより、二円。出、帝劇四枚、十三(円)廿銭。

\*診★(目十察) (診察) \*血昏(血痕)

四月廿二日 己亥 月曜 雨。

課業例の如し。鶴子、午早々津田へ行。来客、大村梅子夫人、島田信子。井深氏。

入、大村子御手本、月謝、八円。入、小早川月謝、三円。

四月廿三日 庚子 火曜 雨。

火曜会、稽古する。

入、渡辺きみ四月、三円。入、上田鉄四月、一円五十(銭)。

(四月廿四日、記載ナシ)

四月廿五日 壬寅 木曜 雨。

朝、教授畢る。

婦人社交名簿、一円五十(銭)。

四月廿六日 癸卯 金曜 曇、后雨。

朝八時出門。上野電気博覧二行。皇后陛下行啓あらせられる。九時半御着、奉迎申上る。陛下に敬礼申上る。よく御承知に相成候て、工業御覧の際、御供奉仰付られ、結構々々に残るくまなく拝見、説明も聞て、実に有かたしとも有かたし。御覧後、御便殿え召されて、花松典侍さま御取扱、結構なる御菓子御下賜いたし候。同行、棚橋、鳩山も共に拝謁仰付

られる。

四月廿七日 甲辰 土曜 晴。

朝、課業畢る。生徒全部え申聞せの事あり。予、李子、長谷川千賀子、大沢亀子と帝劇え行。男優だけに、よほと力もあり、熱心の技能を顕はしたり。十一時帰。石山吉子、大炊御門駒女來。過日の訳り「(ママ)」を申のへに来る。

\*技能(技能)

四月廿八日 乙巳 日曜 晴。

朝、大東主事來る、本月より増給二付御礼に。來客、佐藤三吉先生 貞子を連れて卒業之御礼に来る、御寄附老百田学校え、島安次郎細君と久子と御礼にきたる。中村清子、石井初子え書をよす。

神蔵植木や、六円三十(錢)。

\*植木や(植木屋)

四月廿九日 丙午 月曜

課業例の如し。

出、渡辺三方七箇、壹円七十五(錢)。出、三越呉服店、四十八円。島田四月分、十三(円)六錢。

四月卅日 丁未 火曜 晴。

火曜稽古日二付、稽古する。長谷川千賀子。靖国神社大祭二付、半日にて休業ス。

入、斯波手本、五円。入、同四月分、壹円五十(錢)。入、笹川四月分、一円五十(錢)。

入、小倉四月分、一円五十(錢)。出、下総や車代、八円三(十)三(錢)。同、星のやそ

はや、七(十)二(錢)。同、吉の洗濯や、五(十)四(錢)。同、柳代、三十(錢)。

\*下総や(下総屋) \*星のや(星の屋) \*そはや(蕎麦屋) \*吉の洗濯や(吉の洗濯屋)

金拾三円六十錢、島田払。同九円八十九錢、四軒分払。

(五月)

五月一日 戊申 水曜 雨。

朝より揮毫ものス。來客、志賀鉄千代。

五月二日 己酉 木曜 晴。

課業例の如し。揮毫ものス。房州より電報着。本日出京、午後三時過、治子、幾子無事着。本日母の五十回忌法事二付、夫々招待状出ス。

五月三日 庚戌 金曜 晴。  
金曜の稽古する。

五月四日 辛亥 土曜 晴、風。  
課業畢る。午下一時より閑院宮へ参る。愛国婦人会地方支部長を召る。一同拝謁。御培(陪)食仰付られる。退散後、御息所に拝謁申上て、小田原御別邸にて、わか生徒の遠足にてもあるならばかしてもよろしくと仰せられたり。帰途、玉枝方え寄、棚はし氏と共に素謡なとありて遊びて帰。

出、藤井氏え小包、十一(錢)。

\*かして(貸して) \*棚はし(棚橋)

五月五日 壬子 日曜 曇。五時頃より雨交雷。  
来客、西村喜代衣の母、御礼に来る。中野より正子来る。  
竹田氏、いく子はしめて。

五月六日 癸丑 月曜 晴。  
一天拭か如し。快晴心地よし。課業如例。  
出、井深薬料、四円八十(錢)。同、同診料、三円。同、種痘二人分、一円。同、日本土風会一月より六月迄、四十(錢)。

五月七日 甲寅 火曜 晴。  
朝より火曜会の稽古する。午下一時前より光園寺に参る、津田栄子も。母、妙善院幾野五十年忌を営む。客、姉小路公正、石山吉子、跡見玉枝、中野より八泰不快不参、正子、寿子、予、李子、極と也。一時三十分、読経ありて一同柳町の宅え御出に相成。五時より晚餐を饗す。伊勢忠料理にて賑々しく、八時過済て退散。  
出、風月堂菓子代、六円。

\*光園寺(光円寺)

(五月八日、九日、記載ナシ)

五月十日 丁巳 金曜 晴。  
金曜会、稽古して(以下、記述ナシ)。

五月十一日 戊午 土曜  
朝、課業畢。

出、婦女新聞五月、廿四(錢)。

五月十二日 己未 日曜

午下早々一時より穩田九大山邸内黒沢礼吉邸に、招待に応じて行。先、礼吉夫婦之案内にて清国歴代帝王之宸筆、及名匠之書画を觀ル。清歴代帝王、明、遼、金、元歴代帝王、唐五代帝王、及歴代名人書画、隋煬帝御画、唐太宗御筆近脩札、及吳道士觀音像、實に天下之佳品頗ル多、とても一日位にて觀覽せられぬ。松方侯、後藤外相方之培(陪)覽。正木美術学校長黒沢氏等之説明にて實に結構いはん方なし。四時退散して中野跡見へ行、夕飯呼れて帰。

須田氏へ行、診★(目十察)。眼病よほとよく成たりとも、服薬も先やめる方宜しと云。  
中野跡見心付、一円五十(錢)。

\*診★(目十察)(診察)

五月十三日 庚申 月曜 陰、雨。

朝、課業例の如し。正午、中野より正子来る。治子、幾子、中野より帰りて長尾氏方え三人連にて行。来客、東伏見宮老女糸島 予の画を持參して掉(捺)印を頼出る、下瀬房子、夕、跡見玉枝。

入、東伏見宮いと島、二円五十(錢)。入、田中みほ御手本、十(円)。入、万里小路香料、二(円)五十(錢)。出、須田氏診★(目十察)(察)料、十五(円)。出、湯殿直し代、三十五(円)十五(錢)。

五月十四日 辛酉 火曜 陰。

火曜稽古する。朝、弘来る。原氏よりの報告する。

入、佐々木とみよ、三(円)。入、内藤信江、一(円)五十(錢)。同、大島長江、一(円)五十(錢)。同、角田栄子、一(円)五十(錢)。同、渡辺きみ手本、五(円)。同 田中三保、三(円)。同、佐藤貞子、一(円)五十(錢)。同、佐藤ちか、一(円)五十(錢)。

五月十五日 壬戌 水曜 晴。

正午より安井氏、中村芳子より招待にて歌舞伎へ行。徳川家千代城明渡しの西郷、勝氏の談判にて、先々よく出来たり。次、あたちか原奥州征伐、白子や店、切、親子獅子、奇麗、よく躍つたり。十時済て帰。

\*千代城(千代田城) \*あたちか原(安達か原)

五月十六日 癸亥 木曜 晴。

朝の課業如例。來客、高木貞子、其娘と。  
向島鐘ヶ淵高木。

五月十七日 甲子 金曜 雨。  
朝、金曜稽古する。

五月十八日 乙丑 土曜 晴。本願寺婦人会、上野精養軒、午前十時、会費七十錢。  
朝の授業畢る。正午より上野精養軒に会ス。御法主、及恒子様、會長岩倉様に御目にかゝり、本会之發てんを御祝ひに相成。會員八百人と云。大盛會也。朝の内式相濟、午後余興のみ。四時帰。姉小路公正様より、京都豊大病氣ニ而今夕七半出發すると申され候ニ付、大至急にていく子京都え遣し候事に決し、姉小路様に願ひて同行したり。  
婦人会々費、三円。

\*發てん (發展)

五月十九日 丙寅 日曜 晴。 觀世別會。

朝八時より觀世に別會能をみる。久々に面白し。予、治子と長谷川千賀子を添ふ。姉小路良子様より電報、本日〇時十分豊死去。京都万里小路幸子様の御遺物着。  
觀世見所、十円。

五月廿日 丁卯 月曜 雨。

朝、課業畢る。名古屋村手三千夫え小包物返却。三重県津市堀川茂三え小包物返却。  
出、京姉小路豊え香料、三円。同、中島操使え、五十 (錢)。

\*名古屋 (名古屋)

五月廿一日 戊辰 火曜 晴。

火曜會、稽古する。午下、川田豊吉氏え。夫より角田氏を問ふて帰。  
日比野え。

五月廿二日 己巳 水曜 晴。

朝、予、治子と墓參して帰。姉小路より本日午後八時三十分東京訖着。公正伯、幾子同道申來る。夕景より霹靂一声、雷鳴ありて一寸雨ふる。後月清し。  
酒匂藤井え元稿を送る。

\*東京訖 (東京駅)

五月廿三日 庚午 木曜 晴。本日一日の好天氣、後七時比雨ふる。

早暁より天晴朗、第一の空なり。校友會春季大會、上野精養軒にて。予、正午より出張ス。

会員の集る事夥しく千人の余也。午下二時、校長李子、先挨拶する。次に湯原元一氏講演。次、おとぎ劇、三曲合奏二番にて畢、食堂開けたり。次に花の如き奇麗なる事外になく候。黒田茂宮様も成らせられる。五時畢、退散。李ハ房州客連て電気博え行、雨に逢て帰。出、校友会え、十円。

五月廿四日 辛未 金曜 雨。  
陰にして小雨あり。金曜稽古する。

五月廿五日 壬申 土曜 陰。

課業如例。午下、閑院宮え参り、御息所様御揮毫もの拝見す。

酒匂藤井より野菜着。軽井沢。

閑宮様使え、三十(銭)。

五月廿六日 癸酉 日曜 晴。

房州治子、いく子、今朝帰房二付、李子、静子、すみ子、両国迄見立る。小石川善光寺春季大会二付、午前十時より参詣す。法事、読経、施かき等有て、余興一番見て帰。毛利公より御使あり。

出、善光寺え、三円。同、毛利使え、五十(銭)。同、橋本払、二円。

\*施かき(施餓鬼)

五月廿七日 甲戌 月曜 晴。

課業如例。午下、東伏見宮え参る。御息所に拝謁仰付られ、御庭に散歩。以前とは殊更によく御手入行届かせられ御広く結構々々にて、奥庭の御畑、草花の種々咲みたれて満目あやにしきの如く、君様御導き遊し戴、苺も沢山に取摘、御草花、具美人草、いつ迄菊、除虫菊、海老根蘭、薔薇、時しらす、其外種々戴、そら豆沢山にいたゞきて、御合のものもいたゞきて退出す。午後五時也。

\*あやにしき(綾錦) \*具美人草(虞美人草)

五月廿八日 乙亥 火曜 晴。

火曜の稽古する。中野より正子来る。夜、雨ふる。

軽井沢市村え書をよす。相州藤井え。房州いく子え。

入、商券、百八十九(円)。

五月廿九日 丙子 水曜 晴。夜雨ふる。深更月清し。

朝、学校巡見する。午下、李子、志賀氏、裏松子を問ふ。中野より泰来る。夕景より予、静子、すみ子連て白山下へ行。撫子二鉢買て帰。

植木や、三円四(十)三(銭)。

\*植木や(植木屋)

五月卅日 丁丑 木曜 晴。

課業例の如し。午下、予、李子と駒達はら新え行、薔薇をみる。亭主夫婦、大めに喜んで洛陽、如月の二種を買って帰。帰途、酒井伯を問ふて帰。

五月卅一日 戊寅 金曜 晴。夕景、雨ふり出して、夜中大雨となる。

金曜稽古する。来客、酒井伯老女、伯よりの御口上を申来る。

はら新二鉢、六円五十(銭)。花松、五円五(十)三(銭)。車や、拾五円九(十)二(銭)、井深薬代、一円六十(銭)、大塚弘、三十五円十五(銭)。

\*車や(車屋)

(六月)

六月一日 己卯 土曜 晴。

朝四時起。雨しきり也。玉川鮎漁もいかゝとあんしたるに段々と雨晴て愈出立決定する。

此時、斎藤仁子来る。予、李子と九時出門。電車にて新宿追分にて乗替、山王にのる。改

正にて志賀鉄千代、及進氏夫人と娘、出向にて、同乗して玉川電車にて行。是政吉野氏、

茶亭に憩ひ待合ス。一時頃、志賀氏、露人クリモウ夫婦と、御孫はる江、いつ江と共に御

出にて、一番大船にて鮎漁を見る。鵜飼にて鮎をとる。さて是鮎の料理、実に其美味壁か

たなし。七通にして食す。いくつたへたか分らぬほど也。玉川の賑はしさ釣する人雑沓す

る。四時過引出る。吉野園主人も来りて帰着、九時過也。

\*壁かたなし(譬かたなし) \*たへた(食べた)

六月二日 庚辰 日曜 晴。朝小雨。

朝、散歩して帰。山根文策氏、五十日祭二付御備物する。来客、安藤喜一郎。

山根氏、二円五十(銭)。島田弘、十円五(十)三(銭)。同、七円廿銭、志賀氏小包、四

銭。山根使電代、十銭。

\*御備物(御供物)

六月三日 辛巳 月曜 雨。

課業例の如し。来客、四時頃より神代夫婦来りて一泊。

竹田氏。

六月四日 壬午 火曜 雨。

火曜稽古する。来客、津田栄子行連て、神代婦夫同道にて中野へ行。李子、午下七時半出門、九時の汽車にて京都へ行、母の五十年忌勤に、たのむ。

\*神代婦夫(神代夫婦)

六月五日 癸未 水曜 晴。

教場見廻る。来客、玉枝。天下茶屋寺田、田中、法事参詣之由申来る。右直二京都李子え電報にて申遣し候。午後二時半、李子より電報、無事着。

出、きみえ預ル、五円。出、貯蔵銀行預る、百円也。出、名古屋(屋)小包、八錢、同、津田使え、廿錢。目録封筒廿枚、十錢。

\*名古屋(名古屋)

六月六日 甲申 木曜 晴。

課業例の如し。李子、名古屋より端書着。

\*名古屋(名古屋)

六月七日 乙酉 金曜 晴。

金曜の稽古する。故母妙善院様の正当二付、光園寺坊主を頼みて読経を願ひ、中野泰不参、正子、靖子、早苗、石山威参りて御供養、おすもし、御さし身、瓜もみ、御菓子碗にて、賑々敷、塾先生より下部迄十五人えばらすし一鉢ツ、を。

光園寺え、二円五十(錢)。

\*光園寺(光円寺) \*光園寺(光円寺)

六月八日 丙戌 土曜 晴。

課業如例。午下、予、正子と高島や白木古梅園二行て、買物して帰。

古梅園、三円八十五(錢)。電車代、廿錢。

\*高島や(高島屋)

六月九日 丁亥 日曜 晴。

朝、須田眼科へ行。李子より書至。前一時半、李子より電報、本日大坂行、明日午後八時東京着。朝四時半起て、日食をみる。学校四年の教室前にて正面にみえる。(絵) 斯の如し。

名古屋や中村、中井、石井、京大聖寺え。

\*名古屋(名古屋)

六月十日 戊子 月曜 雨。



課業例の如し。此夜、李子、八時半東京駅着二付、迎ひの者遣し候。十時前、無事帰着。京都の模様委敷物語り、十二(時)就眠。

六月十一日 己丑 火曜 晴。

火曜の稽古する。来客、山根綾子、土井早苗。

田丸や四鐘、五円四十(銭)。

\*田丸や(田丸屋)

六月十二日 庚寅 水曜 晴。

朝より脊かいたみて、竹田氏を迎えて治療をたのみ、直にいたみさりて、午下四時より毛利公を訪ふ。本日は三条治子様成らせられて、安子様御邸に於、公爵御夫婦、御姫二人さまにて、余興も沢山有て面白き事。夕餐の御饗応に預り十時帰。李子、鎌倉長谷川智賀子別荘に行て、十一時過帰。竹田氏。

六月十三日 辛卯 木曜 晴。

課業例の如し。

六月十四日 壬辰 金曜 晴。

金曜稽古する。午下二時より志賀重昂氏講話あり。欧羅巴現今之状況、戦争之模様等にて生徒一同大感心致し候。来客、学修院教諭村山熊太氏。

京都法事二付入用、百廿九円五十銭。手本六拾本、三十一(円)廿八(銭)。

\*学修院(学習院)

六月十五日 癸巳 土曜 晴。

課業例の如し。午下五時より観世夜能に行。予、李子と玉枝を誘引たり。

六月十六日 甲午 日曜 晴。

朝九時より霞ヶ関大谷家盆栽会に行、盆栽陳列をみる。盆栽も珍木のみ、幾百年の古樹をよく面白く栽培したるもののみにて、其台のそれ々天然木の長短、よく位置も出来て、皆感佩の外なく結構に拝見いたし、諸家よりの珍木も有りたれて(と)、大谷家に増したるものハなく候。昼頃帰る。帰途、東京駅の歓迎門の裝飾見事に出来たり。

\*栽培(栽培)

六月十七日 乙未 月曜 雨。

六月十八日 丙申 火曜 陰。

朝より火曜会の稽古する。後、揮毫ものス。コ―殿下御入京、先々雨降らずしてよき御都合なり。九条恵子様よりの御短冊、故万里小路幸子刀自の追悼、夕梅雨よみてさし上たり。午下早々、浅草婦人会に行、五時帰。

六月十九日 丁酉 水曜 晴。

朝より揮毫ものス。午下早々閑院宮様え参り、御息所拝謁して、御印の篆刻之事二付御咄し申上て帰。

六月廿日 戊戌 木曜 雨。

課業如例。午下二時より車にて高田馬場津田氏を問ふ。廿三日、栄子、文、行と女中を連、上海へ行二付、いと間乞に行、夕餐を喫して帰。此時、雨甚し。朝より箱書附三箇と外に揮毫ものス。

田丸やあられ三箇、三円六十(錢)。津田女中下部え、三円五十(錢)。

\*いと間(暇) \*田丸や(田丸屋)

六月廿一日 己亥 金曜 雨。

金曜稽古する。それより揮毫ものス。

(六月廿二日、記載ナシ)

六月廿三日 辛丑 日曜 雨。

来客、弘、広岡細君。

六月廿四日 壬寅 月曜 晴。40(度)。

課業例の如し。此朝、津田栄子、文、行、下女連て上海に出発。東京朝十時発。横浜汽船十二時発航。李子東京駅迄行。来客、中野より正子。

閑院宮より、三十円。

六月廿五日 癸卯 火曜 晴。

地久節、祝し奉る。休業如例。午下二時比、原富太郎君、弘を連て来られて、高橋捨六氏病氣も大患にて一日も早く入駕之式を挙げられ様と申され、承諾之上、廿八日吉日を以て式を挙度、火急の事ニも有之、止を得ん訳にて、一切原君にまかせて、其日は予と泰、弘も連て入駕之事に決定いたし候。弘は今晩より美濃地え出張して廿七日に帰宅の事ニ相成候。実に種々拵物して大困さつ(混雑)いたし候。此夜八時半、万里様京都より御帰京二付、予、李子、すみ子、静子を連て迎ひに行。無事御着。また此夜九時、弘、美濃行二付、其

まゝ弘を送りて帰、十時過。

\*大困さつ(大混雑)

六月廿六日 甲辰 水曜 雨。

学校より六月分、六十円。同手当、三十円。

六月廿七日 乙巳 木曜 晴。

課業。生徒全部、教員引連て所々方方え見学に行。本日四時頃より中野宅にて、予、李子、別宴を催す。兩人行。外に客ハ長尾と石山基たけのみ也。八時頃畢而帰。箆笥二箇と夏蒲団、外にかばん等こしらへも出来たり。本日、原氏より着衣及袴、帯、襦半等仕立て、弘え当日の衣類出来てもさせて下されたり。六月廿五日香取丸にて文着。皆無事、来七月二日上海着のよし。

原氏使え二人、四円。松魚代、十円。羽織紐、式円四(十)五(銭)。タオル、八(十)八(銭)。楊枝二、三(十)六(銭)。

\*石山基たけ(石山基威) \*襦半(襦袢) \*もさせて(もたせて)

六月廿八日 丙午 金曜 晴。

朝より拵事にていそかし。九時に如約、泰、弘来りて、十時、原氏よりの自動車着。それと予と三人にて高橋氏え行。捨六氏幕上にて対面。本日の祝賀を申て親子の祝杯を重ね、先々式畢。原氏御夫婦の媒酌にて万事無滞相済。主人捨六氏、本日午後三時より病院え入院相成事二候。原氏夫婦と予、築地新喜楽にて昼餐を済せて自動車にて新橋にて御別れ申て帰。

九条家より千疋。三条家より千疋。

六月廿九日 丁未 土曜 晴。

課業例の如し。朝、久米民之助より端書にて、民十郎三十日神戸着のよし、未だ船は不着。久米神戸え出立致し候。午下二時より愛国婦人会に行。三十分、総裁宮殿下成らせられ、教養場生徒成蹟一巡御覧二相成て、四時還行なる。

\*成蹟(成績) \*還行(還幸)

六月卅日 戊申 日曜 晴。七(87)(度)。

午前十時より愛国婦人会二行。本日ハ教養場生徒一同、皇后陛下より丹研(端溪)硯一箇ツ、御下賜相成候。実に名譽の限りなり。其式あり。勅語奉読 会長清浦様、演舌 江木氏。おこそかに此式済て、昼折詰、一同済て、庭園にて一同写真。次に余興数番ありて、四時一同退散。六時頃、弘来りて、高橋両親の実に真の親の如くにて大悦、予も大く安心々々いたし候。七時比帰。玉枝来る。

学校より半季利子、六十(円)七十銭。同より半季謝義、二百五十円。

\*丹研硯(端溪硯)

(七月)

七月一日 己酉 月曜 晴。八(十)七(度)。

朝清め済て、本日より半日教授と相成。八時十分より九時四十分にて予の受持畢。朝十時より大学病院一等室二高橋捨六氏を訪ふ。細君も居らせられ、手術之経過も宜しく先々気分もよし。暫時にして帰。

七月二日 庚戌 火曜 晴。92(度)。

火曜の稽古畢る。大学病院に高橋氏を問ふ。手術之経過も良好と云。何にせよ此暑氣にて一層御あんし申たり。午下五時半、久米民十郎帰朝、東京駅着二付、予、李子と迎ひに行たり。着時間五時にて不逢して帰。

扇子三本、七円廿五(銭)。

七月三日 辛亥 水曜 晴。90(度)。

朝より暑氣甚し。

七月四日 壬子 木曜 雨。91(度)。

課業例の如し。来客、久米民十郎、久々にて面会する。暫咄して帰。

七月五日 癸丑 金曜 雨。41(度)。

金曜稽古する。俄然涼氣、終日細雨ふり通したり。

七月六日 甲寅 土曜 晴。88(度)。

課業如例。来客、多豊尾、角田栄子。如約、午下三時三十分迄、西村喜三郎子名代宮原六之介、自動車にて迎ひ来り、予、李子と同車にて浅草八百善二行。西村喜三郎氏催しにて、まさ子さま、島田御夫婦、汽船会社々長中島清口氏と正木照蔵氏、予等之客也。広間にて園右之落語二席、次、正木氏義太夫忠臣蔵儀助之切腹、先々よく出来たり。中島氏之方、三吉、是名高き物、実に撰津大丞も涙をこほしたりと云位也。実に入堂之者也。感無究。食事大く's的のもてなし、大張込也。校書、御酌も来り。九時帰。

\*園右(円右) \*大丞(大掾)

七月七日 乙卯 日曜 晴。

朝より中元贈り物にていそかし。李子ハ島田、中村、山根氏え行。来客、百瀬七蔵妻。

七月八日 丙辰 月曜 晴。 82 (度)。

課業如例。午下閑院宮え中元申上る。御息所様拝謁申上て退出。それより東伏見宮え参り、此度大将に御昇進被遊候二付、恐悦申上、中元御祝義も申上ル。両殿下、葉山え成らせられて御留守様にて、糸しまに逢て帰。夫より西村政子を問ふ。横浜行、不在にて帰。

七月九日 丁巳 火曜 晴。 95 (度)。  
稽古納をなす。

(七月十日、記載ナシ)

七月十一日 己未 木曜 晴。

課業。予の請もち、本日にて済。来客、竹田氏、中野正子。此朝十時頃、房州治子着、午下四時中野え行て一泊。

七月十二日 庚申 金曜 晴。 92 (度)。

金曜稽古納をなす。午前九時より三条公暉様え御悔みに行。御夫人妙様の御死去には、実にいたましき限なり。六歳を御惣領として四人さまの御子を残して逝かれたる、跡の方の御気の毒さいはん方なし。参拝して帰途、高はしえ行。細君の姉さまニ逢て種々咄して帰。正午帰。地大震。午下四時頃の暴風雨となりて膏雨大悦、すへて蘇生の心地す。  
\*跡の方(後の方) \*いはん方なし(言はん方なし) \*高はし(高橋)

七月十三日 辛酉 土曜 晴。

朝、大学病院に高橋氏を問ふ。手術後大めに良好。元氣もよく種々咄して帰。野菜之煮物を贈る。

七月十四日 壬戌 日曜 晴。

午下五時頃、弘来る。夕飯を共にして中野え行。

七月十五日 癸亥 月曜 晴。

午下二時、房州汽船着。重威遺骨持参。幾子、鈴木氏、護衛して霊岸島ニ着。治子、李子、泰、清水、自動車二台にて雑司ヶ谷ニ行、埋葬してわか宅ニ帰り、夕飯を出ス。九時頃皆帰。天気陰、涼氣、結構なる日和なり。三条多栄子様御葬送、木村代理。

七月十六日 甲子 火曜 晴。

有約、午下三時より、予、李子と同道にて田端天然自笑軒に行。中島徳蔵先生、先在。すへて茶室にて利休堂二座を定め、予て中島先生、予の真理を尋問致され、何くれと語り合面白く、御互に腹蔵なくて、夕餐を饗されたり。懐石料理十一種、美味にて十二分に頂戴いたし候。八時帰。安藤恭子様成らせられる。神代夫婦、午後八時半東京駅着。仕人遣しくれと云。銀を遣したり。

\*真理 (心裏)

七月十七日 乙丑 水曜 雨。

支那津田え、本郷一木氏え。本日にて第一期試験修了。来客、西村政子、喜代子、面会ス。此ほどの御礼に来られたり。

七月十八日 丙寅 木曜 晴。

有約、堀田伯え行。十一時より田中氏、頼子様も先在にて伴子様より種々の御咄しを聞く。出問もする。先嬰兒の乳房をはしめてふくみたる如く、あじハ分らすなから結構々々に候。六時帰。

\*出問 (質問)

七月十九日 丁卯 金曜 晴。85 (度)。

朝八時半より、予、李子、治子、幾と同じく雑司ヶ谷墓地え行。重威一年祭改葬儀執行。泰夫婦、正子、弘、鶴子夫婦、親戚故旧大勢にて神官葬儀式あり。各玉串をさゝく。畢而菓子、折詰等々出ス。十二日頃畢而皆帰。

七月廿日 戊辰 土曜 晴。88 (度)。

本日ハ山科麗蔵氏招待にて、午下三時より、予、李子と矢の倉福井楼二行。来賓も大勢にて花火、極最上の場所鶴の間にて、両国橋より大橋の川筋、今年ハ殊に大形況盛にして、予ハ此川開ハ四十年來はしめてにて実に驚き入たり。見物人の多き、未曾有の人出なから、警さつの能行届きたるに感心の外無之。国民もよほと洪きよ心よく行れたり。予ハ早く九時帰。

納涼ハなんの人と声との花火かな

\*大形況 (大景況) \*警さつ (警察) \*洪きよ (公共)

七月廿一日 己巳 日曜 土用二郎。晴。85 (度)。

児玉君、大観院殿藤園玄機大居士十三回忌二付、記念帖、御茶一罐贈らる。鶴子来り、一泊ス。朝、閑院宮様え参り、暑中御機嫌伺て、御息所に拝謁申上、竹田氏の御療治之事、御満足あらせられる。

七月廿二日 庚午 月曜 土用三郎。晴。

朝、児玉秀雄君え御香料五円備える。鶴子、山根氏え行。本日百日祭也。

\*備える(供える)

七月廿三日 辛未 火曜 土用四郎。晴。88(度)。

七月廿四日 壬申 水曜 土用五郎。晴。88(度)。

藤井瑞枝子より伝記原稿着。正子、鶴子一泊。夕、清水連郎、辰雄来。朝七時、職員、生徒全部集会、終業式執行。予、主事、李子之演舌等ありて一同退散。東伏見宮より御使、此度大将に御昇進に成らせられたる二付、御肴料。

七月廿五日 癸酉 木曜 土用六郎。実に結構なる土用なり。晴。90(度)。

正子、鶴子帰。伝記読にかゝる。  
竹田氏。

七月廿六日 甲戌 金曜 七郎。

七月廿七日 乙亥 土曜 土用八郎。晴。90(度)。

早起。物置大掃除する。弘来る。

七月廿八日 丙子 日曜 土用九郎。晴。92(度)。

朝、大学病院に高橋氏の病を問ふ。明日退院のめて度をのへて帰。帰途、新田え問て帰。李子、横浜原氏え行。夜に入て帰。来客、大村梅子夫人。宮城花松典侍様え使出ス。

七月廿九日 丁丑 月曜 土用十郎。未た雨ふらず。晴。93(度)。

朝、大学病院より高橋捨六氏退院二付、下部銀を手伝に出したり。房州治子、幾子、帰房。十時発車にて、李子、竹、両国迄見送る、八時半。

七月卅日 戊寅 火曜 土用十一郎。晴。93(度)。

明治天皇御七年祭。新潟高島順作氏来、面会ス。夕景、李子、子供二人連て中野へ行。天雷鳴雨を催し、喜ひたるに雨もなく晴たり。子供二人一泊ス。

七月卅一日 己卯 水曜 晴。

朝、角田竹冷氏を問ふ。予、伝記の相談をする。それより松平鞆子様を問ふ。何くれと御咄し合て、十時過帰。

(八月)

八月一日 庚辰 木曜 晴。

朝より二階の紛本、書籍しらへ、掃除する。来客、鳥尾智勢子。

\*紛本(紛本)

八月二日 辛巳 金曜 晴。

朝より伝記しらへをする。来客、賀茂登美子、政子と夜に入て帰。京都、大阪え暑中品物小包物出ス、十一軒え。

八月三日 壬午 土曜 晴。

朝、揮毫ものス。桑名安井政吉え書画帖出ス。大村梅子様え御手本出ス。大坂、京都十一軒え端書出ス。

八月四日 癸未 日曜 晴。

本日動員令下る。来客、光田寺佐藤氏。

八月五日 甲申 月曜 晴。

光田寺主職佐藤良海来る。本堂其外之建築二付、寄附金を依頼され、金壺百円承諾、二ヶ年一期廿五円ツ、。

八月六日 乙酉 火曜 雨。

此夜よりの雨、静にふりて、実に金とも玉とももの好雨也。人々悦に堪たり。朝四時起。李子一行、静子、寿子、井上、朝くら、銀を連て六人也。上野六時発にて軽井沢に避暑する。七月十八日より本日迄雨なし。暑氣一ばい難凌。午下六時電報、十一時半無事着軽。来客、裏松千代子さま、中野より寿子、靖子、早苗。

本日、千種典侍さまより御使、陛下より金五千足下賜相成候。

八月七日 丙戌 水曜 雨。

晴雨不定。本日朝、九条公より御使信野小路、先達而皇后陛下より仰付られたる和歌御短冊、御満足あらせられて、御色紙、御菓子二箱、御見事なるを戴かせ下され有かたき事也。来客、加茂百樹妻つち子。此夕より玉枝、棚はし、御出にて素謡三番うたふ。実にあつき夜にて閉口。十一時帰られたり。

\*信野小路(信濃小路) \*棚はし(棚橋)



八月八日 丁亥 木曜 晴。

昨夜大雨、度々ふりつゝきにて、今朝も夕立雨にて。朝九時より渋谷高橋え見舞行。病人ハ日々よろしからざる趣きにて、大ぬに心痛いたさる。暫時咄して帰。正子来る。

八月九日 戊子 金曜 晴。83(度)。

軽井沢李子え書をよす。李子、夕六時頃帰宅ス。原氏より要用之事ニ付、三ヶ月拝む。石山みさを来る。京姉小路さまより小包着。三ヶ月。

八月十日 己丑 土曜 晴。

朝より清水氏来る。京姉小路さま、万里さまえ御返書出ス。

八月十一日 庚寅 日曜 晴。85(度)。

朝より中野跡見え行。久々にて種々語り合、夜七時、暇を告て帰。此夜、弘来。

八月十二日 辛卯 月曜 晴。85(度)。

来客、長尾氏、佐竹充。藤井瑞枝子より、ふき、山椒、ちりの粉。浦四三子。花の日会にて外米安売の協議中也。

\*協議中(協議中)

八月十三日 壬辰 火曜 晴。85(度)。

本日角田氏七夕祭に付、招かれ、午下五時二行。昨年之如く数奇をこらして一間々々の飾付、其外軸物等見るへきもの計也。六時より楼上にて常信画横物二幅对七夕之図見事也。例の相摸土俵の飾付にて俳句相摸有て面白く、予、土俵ニ登りたり。七時過、相摸畢る。食事後、余興、手影画、外に紙切細工にて全畢。九時過帰。此夜十一時頃より米の暴動起りて、市中のさわき一方ならぬ事。

\*相摸(相摸) \*俳句相摸(俳句相摸) \*相摸(相摸)

八月十四日 癸巳 水曜 晴。

朝、高橋氏より電話にて、昨夜より父上危険状態ニ付、倚子十五脚もたせ来れる様申来り、直にもたせ遣ス。来客、中村元嘉氏。

\*危険状態(危険状態) \*来れる(来られる)

八月十五日 甲午 木曜 晴。

朝、御室前清めする。前九時より閑院宮様え参り御息所に拝謁す。明日御出登ニ付、御暇乞申上候(而)帰。帰途、渡辺修氏を問ふ。不在にて不逢して帰。午下五時、高橋氏より

電話にて主人後三時より四時迄の間に死去致したりと。李子、取あへず高橋氏へ行。

八月十六日 乙未 金曜 晴。 85 (度)。 あつさの極也。

閑院宮、北海道へ御出発。午前七時上野駅。朝九時より高橋氏へ悔二行、暇乞する。臨終の立派なる事、実に珍ら敷、かんし入候。午三時帰。李子、夕景より高はし氏へ行、通夜して。

\*かんし入 (感じ入) \*高はし (高橋)

八月十七日 丙申 土曜 晴。 93 (度)。 あつさの極度達したり。

朝、李子帰。軽井沢島田氏へ書をよす。午下五時、高橋氏葬義執行。予の代理李子会葬ス。

八月十八日 丁酉 日曜 晴。 90 (度)。

来客、朝、角田栄子。

八月十九日 戊戌 月曜 晴。

米暴動、漸静まりしやうなり。正午過より神田出火。錦耀館あたりより焼出し大火なり。七十九戸焼たり。観世久女、悴の元滋の嫁の事二付て来る。香港津田栄子より無事着の端書着。

\*錦耀館 (錦輝館)

八月廿日 己亥 火曜 晴。 93 (度)。

来客、阪東登美子、其妹と。

八月廿一日 庚子 水曜 晴。 くもりにてすゝし。満月ながら夜九時比雲間より明らかにみる。

朝六時半の汽車にて李子軽井沢へ行。七時より高橋氏の一七日二付、玉窓寺へ参詣する。人の揃はぬ事。十時比漸集る。読経済て遺骨埋葬する。午下二時済て帰。両陛下、日光より御還行啓あらせられる。

\*御還行 (御還幸)

八月廿二日 辛丑 木曜 晴。

芝増上寺仏教婦人会え手拭五十枚袋にして施米用寄贈ス。

竹田氏。

八月廿三日 壬寅 金曜 晴。 85 (度)。

朝より御製かるた書写す。来客、雨宮。夕景、井上、朝倉、軽井沢より帰着。

李子よりは書着。中島徳蔵君と李子えは書出ス。

\*は書(端書) \*は書(端書)

八月廿四日 癸卯 土曜 晴。80(度)。夜月清し、一時過起て庭え出る。  
御製かるた書写ス。来客、守屋玉江、伊藤静江。

八月廿五日 甲辰 日曜 晴。85(度)。夜月清し。  
御製かるた書写ス。夕景、山川氏来る。千葉志賀鉄千代さまより干物着。

八月廿六日 乙巳 月曜 晴。85(度)。

御製かるた百首書上る。来客、戸谷氏、竹田氏、中野よりやす子。李子え書をよす。

残暑也水くまりの神一雨を

竹田氏。

八月廿七日 丙午 火曜 晴。89(度)。

朝より来客、釈義堂、日立鉾山千賀正人 其倅と、大東氏、植村広子、佐々木氏、橋本太吉。  
義堂師え金拾円寄附ス。午下より宮北亀三郎、小川来りて、茶道しらへて先二千円ト云。  
それにて約速済とす。新田正子。夜、棚はし總子さまと譚うたひて十一時迄。

\*約速(約束) \*棚はし總子(棚橋絢子)

八月廿八日 丁未 水曜 晴、雨。80(度)。

早朝はしめて小雨ふる。すぐに止。午下二時頃小雨ふりてすく晴る。  
軽井沢李子え書をよす。

八月廿九日 戊申 木曜 晴。80(度)。

朝より揮毫ものす。

八月卅日 己酉 金曜 曇。80(度)。

昨夜より風有。暴風にならんとしつゝあり。午後より暴風雨にて、昨年の時をおもひけいかいして、雨もますます甚しく相成候。風呂の煙筒一本たをれたり。雨もりハなく、昨年  
にひして十分の二ほとにて静まりぬ、可悦。

\*けいかい(警戒) \*ひして(比して)

八月卅一日 庚戌 土曜 晴。87.5(度)。

昨日にかへて極々晴朗。先々すこしく涼気覚えたり。此日こそとて車をはせて高橋氏を問  
ふ。弘も休日にて在宅、種々生前の御咄し共にて、昼餐を呼はれて三時頃帰。帰途、中村

元嘉氏問て帰。軽井沢李子より電報来らす。さて明日かと存候。夜八時過、突然李子一行帰宅。驚きたり。本朝電報さし出したりと云。迎ひの人も出さず、大不平なから致し方なく、先々みな無事帰宅を悦ぶ。

\*出さず (出さず)

(九月)

九月一日 辛亥 日曜 晴。夜小雨。85 (度)。

九月一日となりぬ。いまた暑さも八十度以上にて二百十日も無事に経過して豊作と悦候。午前十一時頃、房州よりいく子来りぬ。此夜もあつさに庭に出てすゝみぬ、例の如し。

\*すゝみぬ (涼みぬ)

九月二日 壬子 月曜 晴。85 (度)。

朝、李子、いく子、津田へ行。来客、高木多寿 其始と、笹川倭文子、玉枝方の大久保、鎌田みより、宇津美。本日官報を以て、文部大臣より、専門学校入学検定規程により、大正八年三月以後之当校卒業生二対し、高等女学校卒業者と同等以上の学力を有する者と指定ノ件、告示セラレ候。

\*其始 (其娘)

九月三日 癸丑 火曜 晴。85 (度)。 第一会

朝九時より堀田様へ行。北条つね子さま、松平鞆子さま、其外も御出にて、午下三時迄種々御閑話にて有かたき事共也。

九月四日 甲寅 水曜 晴。85 (度)。夜あつく寐に付難し。

朝より、下瀬房 御子さまと、田中みの子、香川初音 子供二人、其母と、中村安代、林里子、門馬氏、横田縫子、大塚氏。此夕、藤井氏伝記之内年表出す。名古や織田静子より書至。

\*名古や (名古屋)

九月五日 乙卯 木曜 晴。

九月六日 丙辰 金曜 晴。86 (度)。

始業式朝八時執行。式場に校長、職員、生徒一同着席。校長の挨拶、次主事、李子演舌等ありて式全畢。生徒もよく集りたり。

九月七日 丁巳 土曜 三日月。晴。85(度)。三日月、大くさがしたれと、とんと見当らず。

課業はしめる。

竹田氏、挨拶済。

九月八日 戊午 日曜 晴。風ありて暴風の集来の模様あり。85(度)。

朝、閑院宮様参る。宮様、御息所様、若宮、姫宮御二方、御一統様に拝謁して、北海道の御咄し、時局に付ても、七年の七ノ数ハ軍事暴動も起る年なりと。廿七、八年、三十七、八年、大正七年、気運のまぐるものか。然し軍事ハ日本開運の時なり。

八日午後八時三十分、津田栄子、子供二人、下婢と帰京ニ付、予、李子、いく子と迎に行。みな無事にて満足々々。

\*集来(襲来) \*まぐる(負くる)

九月九日 己未 月曜 雨。天候風なくして、昨夜より雨になりて、雨も静にして、是天の大々の給物なり。

早起。天を仰きて天候の有かたきを三拝九拝所でなく、此雨を(の)有かたきを謝し奉り(候)。

九月十日 庚申 火曜 晴。80(度)。

本日より火曜会稽古はしむ。来客、津田栄子、正子。夜、土井早苗子御出にて種々咄して十時過帰。

竹田氏。

九月十一日 辛酉 水曜 晴。

閑院宮様御附迄、岡村梅軒之請取書さし上る。二百廿日。大極上々天気、風なく八十四度。天を仰て拝み地にふして拝み候。

九月十二日 壬戌 木曜

課業例の如し。午下四時後より、予、李子と帝劇見物して帰。

第一 女郎花塚、処作もの

第二 白隠禪師、是ハ面白く

第三 懸賞脚本、森律子、月光の下に、よく出来たり

第四 実録先代萩、是も真に入たり

第六 (ママ) 魂の入替、見るへき物てなし

九月十三日 癸亥 金曜 晴。84(度)。

本日ハ金曜稽古はしめ執行。来客、観世かつ女。朝九時、いく子誥別して両国十時之汽車にて帰。此夜半、暴風雨集来之由、天気予報より其用意する。然し何事もなく極おたやかにて、天祐有かたし。

\*集来(襲来)

九月十四日 甲子 土曜 朝、小雨、已而晴、午下雨。80(度)。

課業例の如し。午下五時、予、李子と観世夜能に行。橋岡ノ小督、清之籠太鼓、元滋弦上、三番共実能出来たり。此夜大暴風、ツナミも有と云氣象台警告ながら、暴風雨にもならず。夜一時驟雨あり。三時頃風もありたり。諸天善神之天祐なり。

\*弦上(絃上)

九月十五日 乙丑 日曜 晴。88(度)。

天如拭晴天なれと風あり。午下一時より観世素謡会二行。

八島 武田

俊寛 元滋

草子 喜之

砧 小沢

山姥 橋岡

見所実立立錐の地もなく、それに炎熱如焼之中みな謹而よく聞かれたり。六時過済。五島善子さま、福子さまとにて一泊。

香港津田氏より書至。高橋捨六氏五七日志、白木綿五反。

九月十六日 丙寅 月曜 晴。80(度)。

課業例の如し。

九月十七日 丁卯 火曜 晴。

火曜稽古する。午下三時より明治座に行。土井早苗子の招待にてはしめて此劇をみる。大入満員にてどこに物価登貴やらと云。左団治を頭にして若手連大車輪、かんしんしたり。十時頃済て帰。

\*登貴(騰貴) \*かんしん(感心)

九月十八日 戊辰 水曜 第二会。

朝より雨、午後より晴。午下一時、弥生町堀田様え行、五時帰。

九月十九日 己巳 木曜 明月。晴。83(度)。斯波輝子母有約。

早起。風暴く、大風らしくて天に祈禱す。課業如例。天気予報にてハ無月。鳥居坂本野子

爵に弔詞を伸て御暇乞をする。久子さまにも御目にかゝり御悔申て帰。此帰途、宮城前にて満月出たり。本年の明月、実に真如世界晴なり。あつさハあつし、庭に出て、月見する。近年稀なる清光なり。

九月廿日 庚午 金曜 晴。

朝より金曜の稽古する。午下、斯波輝子の母隈子さま御面談する。正午早々、千駄ヶ谷田中氏二行。北条つね子さまはしめ大せい集会する。今夜ハ浮雲かゝりなから先々清光也。

九月廿一日 辛未 土曜 晴。 85 (度)。

課業例の如し。夕景、土井早苗子来られて、明後日帰国、御暇乞に。夜はなし、九時頃迄。

九月廿二日 壬申 日曜 雨。 64 (度)。

朝より雨にて頓涼、ふらむねるに袷羽織といふ。李子ハ鎌くら橋本太吉君え艶子の病を問ふ。来客、正子。

\*ふらむねる (フランネル) \*鎌くら (鎌倉)

九月廿三日 癸酉 月曜 雨。終日雨ふり通したり。 69 (度)。

課業例の如し。午下、津田栄子、行と夕飯を共にして帰。

名古や織田、中井、日下田千代子、中村元嘉氏え書をよす。

\*名古や (名古屋) \*日下田千代子 (中山千代子)

九月廿四日 甲戌 火曜 雨。

雨と風、暴風雨。昨年の様にもなりなんとしつゝ、午後よりやゝおたやかになりたり。祖

先祭り執行す。夜十一時頃、月殊によし。

中村元嘉氏より山根氏家の事ニ付返書着。

九月廿五日 乙亥 水曜 晴。

天殊に晴朗。きのふの天気ハうその様なり。午下、余、李子と雑司ヶ谷重威の墓参りする。

三ヶ月の中に墓所満員のやうなり。参拝して帰。

新潟高鳥氏え書をよす。善光寺宮田広導師え婦人会長断る。

竹田氏。

九月廿六日 丙子 木曜 晴。 77 (度)。

天晴朗。課業例の如し。市内電車不通。

九月廿七日 丁丑 金曜 雨。

朝より終日ふり通したり。彼岸結願日。金曜稽古する。市中電車停止。

九月廿八日 戊寅 土曜 雨。

朝雨、午下晴。

名古屋や織田氏え、善光寺大宮さまえ書をよす。

竹田氏、此日にて済。

\*名古屋(名古屋)

九月廿九日 己卯 日曜

朝雨、午下晴。あつし。

九月卅日 庚辰 月曜

朝雨、已而晴。本日午後、堀田様行。午下一時より堀田様え行て、伴子さまと北海道御旅行之同道の実見談等にて、其外種々御咄しに長して、とうとう御夕餐を供(共)にして後帰。

名古屋(屋) 中井みと。房州いく子え。石井はつ子え。

\*名古屋(名古屋)

(十月)

十月一日 辛巳 火曜 雨、後曇。

朝雨。火曜の稽古する。神雛にかゝる。

竹田氏。

\*神雛(紙雛)

十月二日 壬午 水曜

朝雨。神雛揮毫する。

訃音、九月廿七日今宿総子死去。

\*神雛(紙雛)

十月三日 癸未 木曜

朝雨、後晴。来客、神戸水島鉄也氏、久々にて面晤する。御病後大ゐに壮健、驚くへし。

十月四日 甲申 金曜 雨。

金曜の稽古する。朝より晴にて、正午より千駄ヶ谷田中氏を問ふ。此日はしめて口聞はし



める。四時過帰。

十月五日 乙酉 土曜 曇。  
課業例の如し。揮毫ものす。

十月六日 丙戌 日曜 雨。

晴天珍らしく又あつくなる。朝より神雛二枚かき上る。午下四時より酒井伯を伺ふ。御一同様御悦にて、けふこそゆるくとしてと仰せにて、忠興様中々の御元氣にて、やはりタシ荷にて庭の御運動、雨天の御かまいなく御一週遊はすと云。御合の物、御夕餐といたゞきて、夜、種々なる芸人参りて諸芸をみる、面白し。十時後帰。夕景より雨になる。石井、織田、中村え書をよす。

\*神雛(紙雛) \*タン荷(担架) \*一週(一周)

十月七日 丁亥 月曜 雨。

朝より雨ふり出したり。課業例の如し。  
房州いく子え。

十月八日 戊子 火曜 晴。

朝より火曜の稽古する。高橋弘、養母と越前え遺骨持参、夜八時汽車にて。李子可送を、大雨、車なくして石山代理する。

十月九日 己丑 水曜 晴。

朝より揮毫ものす。来客、鶴岡貞子其父と、島田信子、五島善子明日帰国ニ付御暇乞に。

十月十日 庚寅 木曜 雨。

課業例の如し。昨夜より今朝も雨。

十月十一日 辛卯 金曜 雨。

雨、又晴。金曜稽古する。午下、揮毫ものす。

十月十二日 壬辰 土曜 陰。

朝雨。課業例の如し。来客、角田栄子、津田栄子。  
あじの干物、房州より。

十月十三日 癸巳 日曜 晴。

朝のつとめ済て、天気もよさうにて中の(野)を尋んと車を命して行。みな大めに悦

ひて、車夫を帰してゆるくと遊び、午飯もよはれて、午後二時半、津田氏を問ふべく、車も来りて暇乞して車に乗る。三、四歩の処にてふと車夫たをれて、其はつみに自分も左の方へ飛ばされて、左の腕及手もしたゝかに打たれば、何もがたまるへき、さけひ鳴たり。またみな側に居たり。大驚。立事も出来ぬに足にハ別条なかりし。漸の事にて内に入て泰はしめ大きわき。アルコールにて方々と怪我の処もむなど、医師もなく、竹田氏え早苗はしりたれとこの日ハ転宅にてとうとう来られず。七時、漸自働やとひて来り、正子と共に八時過帰宅ス。井深氏も来り、待請、早束治療ス。肴に障りなくて打身のみ。動事甚し。

\*中の(中野) \*鳴たり(泣たり) \*また(未だ) \*はしりたれと(走りたれと) \*自働(自動車) \*早束(早速) \*肴(骨) \*動事甚し(疼事甚し)

十月十四日 甲午 月曜

井深氏来る。実に珍らしき不幸に逢ひたり。さりながら未だ門を出ざる間にて往来の人々もしらぬ事、怪我也眼をよけてある。脳も障らず、肩より脊よりあはらにかけて打ぼく傷を得たり。右の手ハ違条なし。是又幸也。

竹田氏来る。

\*打ぼく傷(打撲傷) \*違条なし(異状なし)

十月十五日 乙未 火曜

御稽古断りたり。

竹田氏。

十月十六日 丙申 水曜 雨。

高橋氏より電話にて、明日養母と同道、弘来るへきよしなから、私の臥蓐中にて其御かまひなくはと申たるに、来るへくと申されて約束す。中野泰ハさし支にて断りたり。長尾氏来りて芋療治せられたり。

\*さし支(差支)

十月十七日 丁酉 木曜 陰。十三夜、後の月見、清光。

陰雨究りなし。午下二時頃、弘、養母と同道にてはしめて来られ、久々にて何くれと閑談して、御合のもの、おすし、吸物位にて、四時頃帰られたり。

竹田氏。

\*究りなし(極りなし)

十月十八日 戊戌 金曜 晴。

御稽古は休む。職員かた見舞に来られたり。李子誕生日ニ付おすもしなと拵らへて、わか居間にてみなく打寄て夕餐を供にす。堀田様えは御断いたし候。浅草婦人会も本日相断、

慰問袋廿箇寄附ス。

\*供にす (共にす)

十月十九日 己亥 土曜 晴。十五夜の月清し。

午下、松平鞆子様御入にて、種々なる御咄し共同、夕景御帰りなり。此時正子も来る。竹田氏。

十月廿日 庚子 日曜 晴。

十月廿一日 辛丑 月曜 晴。

晴天。実に近来珍らしき晴朗。生徒全部遠足会。川越の芋掘といふ。夕景無事一同帰。本日の様を聞いて嬉しかり。来客、長谷川千賀子、板東錫子、見舞に来られ、しはらく咄して帰られたり。

十月廿二日 壬寅 火曜 陰。

来客、堀田伴子様、御見舞に御出に相成、何くれと御咄しにて有かたし。竹田氏。

十月廿三日 癸卯 水曜 陰。

臥蓐ス。来客、長尾氏、見舞に来られたり。

十月二十四日 甲辰 木曜 晴。

臥蓐ス。無我の二字、掛物にして、中島君え病氣見舞に贈る。竹田氏。

十月廿五日 乙巳 金曜 晴。

稽古断る。来客日比野雷風。

中島徳蔵先生より御礼の書状来る。

十月廿六日 丙午 土曜 陰。

来客、斎藤仁子、岩浪稲子、夕飯を供にして、夜八時過帰。竹田氏。

\*供にして (共にして)

十月廿七日 丁未 日曜 雨。

李子、横浜茂木氏、原氏え行。来客、高橋弘。

十月廿八日 戊申 月曜 晴。

あたゝかく小春日和なり。

房迹見と石井。名古屋や三軒え。

竹田氏。

\*名古屋(名古屋)

十月廿九日 己酉 火曜 晴、后陰。

来客、主事大東氏。北条つね子さまえ使出ス。

竹田氏済。

十月卅日 庚戌 水曜 陰。

西班牙風もわか校にも来りて、通学、寄宿舎にもレコード破りを来したり。然し極々軽微にて漸々快方ニ相成たり。来客、中野より正子、井深氏も。

十月卅一日 辛亥 木曜 晴。

天晴朗、天長節日和也。陛下御軽微なる御風気にて観兵式も御見合、また時局に関して菊花御宴も御見合せ、外務大臣夜会も見合と成りたり。

(十一月)

十一月一日 壬子 金曜 晴。

はしめて金曜の稽古する。河村、山田氏のみ来られたり。長尾収一氏来られ、塾生見舞れ、みな全快、三人臥蓐のものありと。木津跡見より書至ル。

十一月二日 癸丑 土曜 陰。

朝より大島長江子、鶴岡貞子、小録美穂子三人え、結婚二付、反物及松魚を祝ふ。  
竹田氏。

十一月三日 甲寅 日曜 晴。

十一月四日 乙卯 月曜 晴。

はしめて学校教授する。来客、梅若米子、鳥尾智世子。庭の手入出来上る。

十一月五日 丙辰 火曜 雨。

火曜稽古はしめる。朝より雨になる。賀茂二女結婚披露会、水交舎にて。李子参列する、予ハ断りたり。閑院宮様より御電話にて、明日御息所様、橋場三条様成らせられ候二付、私にもと仰せられ候二付、拝承いたしたり。

\*水交舎（水交社）

十一月六日 丁巳 水曜 晴、又雨。

土方伯へ玉串料五円。午下一時半より橋場安藤様え上り、暫時にして御息所様成らせられ、拝謁申上。御合の物、御茶菓にて、御子様方の御成長を御満足あらせられ、四時頃より三条資君様え成らせられる。御馬車に御培乗申上て、久々に資君様大／＼御悦さまにて、水入らすのお咄し共にて、結構なる御夕餐の御相伴いたゞき、夜八時頃帰。此時雨ふり出したり。

紀州土井より干物着。

\*御培乗（御陪乗）

十一月七日 戊午 木曜 雨。朝雨細雨。

課業例の如し。午下五時帝國ホテルえ河合房三郎と鶴岡てい子の結婚披露会ニ会ス。九時帰。来客、正木夫人ト千代子、御礼に来られる。

十一月八日 己未 金曜 陰。

金曜稽古する。大村梅子御出ニ相成たり。午下五時、築地精養軒え。箕作俊夫、大島長江子の結婚披露会ニ会ス。九時過帰。朝、鶴岡庄七、御礼ニ来る。

十一月九日 庚申 土曜 陰。

土方伯告别式、午後二時。課業例の如し。正午土方伯告别式ニ参集して帰。

十一月十日 辛酉 日曜 晴。

昨夜大雨。陛下大演習行幸。天始而晴朗。林千秋と香村美穂子、十一日結婚二付、松魚、襟巻祝物ス。正木千代子えも色紙文庫え金地色紙寄菊祝の和歌と松魚を祝ふ。

十一月十一日 壬戌 月曜 晴。

課業例の如し。安田暉子より大りんの菊二鉢と大懸崖の赤と下されて満足是上なし。予、李子、午四時より築地精養軒に林千秋、美保子の結婚披露会ニ行。実に盛会也。九時めて度済て帰。

十一月十二日 癸亥 火曜

火曜稽古する。朝、林千秋、美保子と御礼に来る。安田暉子。予、午下早々、元園町友田

六之介氏にて本願寺婦人会集会ニ会ス。会長岩倉梭子さまも御出にて報恩講の相談也。畢而後藤省三氏の琵琶面白し。七時頃帰。

十一月十三日 甲子 水曜 晴。高松道、正木千代子結権披露会。

休戦条約正文発表ニ付、軒に日章旗掲る事申来る。多年戦争も漸く今日休戦と相成。可祝可悦。帝国万々歳。陛下大演習地へ行幸相成。午下四時より築地精養軒え正木氏。

\*結権(結婚)

(十一月十四日、記載ナシ)

十一月十五日 丙寅 金曜 晴。

金曜稽古する。午下二時より、予、李子と、秋元春朝子二女様の紐落しの御祝日に御招にて、御親戚の方々も大分御出に相成。余興、二弦寿くらへ、松竹梅など御子様御ふた方も御弾きに相成て、食堂にて御洋食、済て帰。

十一月十六日 丁卯 土曜 晴。

朝九時より予、李子、小林氏と文展を観る。感心するものもあれハ、何とも分らぬ愚作もある。十二時過迄みる。精養軒にて昼餐を済せて小林氏に別れ、それより谷中佐野新子様の墓参する。二七日にあたる。それより帰宅。来客、岡部勇子、鶴岡庄七細君。

十一月十七日 戊辰 日曜 雨。

竹田氏。

(十一月十八日、記載ナシ)

十一月十九日 庚午 火曜

火曜稽古する。

十一月廿日 辛未 水曜 晴。

来客、高瀬その子、其母と。額面一枚を渡す。

竹田氏。

十一月廿一日 壬申 木曜 晴。

休戦確定祝賀会。前々よりの市中之準備、未曾有之祝典、市中ハ涌帰(沸返)る如くなり。学校職員、生徒一同式場に出て、先、君か代を唱し、主事演説、発端よりの戦争之咄し有て万歳ニ終。名(銘)々の教場にて茶菓を出す。予ハ千駄ヶ谷田中氏へ行。職員一

同礼法教室にて洋食午餐あり。

\*名々(銘々)

十一月廿二日 癸酉 金曜 晴。午後より大雨となる。邪払之雨也。

休業。和慰会、歌舞伎座に催しにて、散敷四間十八人之会員、実に面白くてかんし入候。十時帰。高橋百ヶ日、午後二時に相成候二付不参する。

\*散敷(棧敷) \*かんし入(感じ入)

十一月廿三日 甲戌 土曜 晴。

新嘗祭、休日。中野より靖子、早苗来り、李子、静子、すみ子、残りの塾生もつれて上野音楽会二行。予、終日揮毫ものス。

十一月廿四日 乙亥 日曜 陰。

来客、中野より正子。

竹田氏。

十一月廿五日 丙子 月曜 晴。

課業例の如し。北条様御本一部着。

北条彝子、名古や日比野え。

\*名古や(名古屋)

十一月廿六日 丁丑 火曜 晴。

火曜稽古する。御内儀千種様え献上物する。

十一月廿七日 戊寅 水曜 晴。浅草婦人会。

午下草々、浅草観音さまえ参り買物して、本願寺報恩講ニ参る。説教三座聴聞して帰。竹田氏。

\*午下草々(午下早々)

十一月廿八日 己卯 木曜 晴。

課業例の如し。午下一時半出門にて御所え参る。千種典侍様ニ久々に御目もし申上、一時間余も御はなし申上候。皇后宮より結構なる御反もの、御菓子等御下賜。正親町鍾子様ニも久々に御局え御下り、御親しく御咄し申上、今参りの大原よし子さまにて、御目にかゝる。御料理等いたゞき点灯頃迄にて帰。

十一月廿九日 庚辰 金曜 晴。

金曜稽古する。揮毫ものス。

十一月卅日 辛巳 土曜 晴。

課業例の如し。李子、下渋谷高橋え、四日弘と照の内祝言二付、松魚大箱、反物祝ふ。

(十二月)

十二月一日 壬午 日曜 陰。

十二月二日 癸未 月曜 雨。 田辺文之助、田中三保子の結婚披露会。

課業例の如し。午下四時半より、予、李子、帝国ホテルニ行。田辺、田中結婚披露会。始、附子狂言、能鉢木、北六平太シテ、宝生新ワキ。実に立派也。食堂開け、来客三百五十人と云。済て又余興、長唄連獅子、芳孝治郎、杵屋勝太郎。一座、十時後畢。  
北条彝子さまより御経本着。

\*北六平太(喜多六平太) \*芳孝治郎(芳村孝治郎)

十二月三日 甲申 火曜 晴。

火曜稽古する。大東主事来る。この六日協義会之筈、角田氏病氣ニ付延引する。  
北条様え、房州いく子え、名古屋や日比野え。竹田氏え。

\*協義会(協義会) \*名古屋(名古屋)

十二月四日 乙酉 水曜 晴。

予、痔疾にて臥蓐。午下三時より下渋谷高はし氏え行。弘、照子と結婚式ニ付、出席ス。  
此方ハ中野より正子ト泰夫婦と列席。三々九度、式畢而親子親戚之杯事ありて、奥広間にて宴開かれる。正面原富太郎氏、予と正子と三人にて、右側、泰、寿子、養母花子、新郎新婦、美沢氏夫婦、媒酌。左、捨六氏ノ兄夫婦と新婦之両親、養母の姉と、謝恩会林氏、其外二人代表者と云。実に擲重なる食事万端にて驚々入たり。九時めて度相済。予ハ原氏自動車にて送り届け下されたり、三十分。

竹田氏。

\*高はし(高橋) \*擲重なる(鄭重なる) \*めて度(目出度)

十二月五日 丙戌 木曜 晴。

臥蓐する。

竹田氏。



十二月六日 丁亥 金曜 陰。  
金曜稽古する。終日揮毫ものス。

十二月七日 戊子 土曜

課業如例。午下三時半、予、李子と同伴、帝国ホテルに行。三輪善太郎、武敏子結婚披露会ニ出席ス。余興、三番叟長唄、杵屋、芳村、廿一人也。畢て次ニ新歌舞伎十八番之内春興鏡獅子、中村福助、外に胡蝶二人、奥女中二人、実に見事成もの也。嫁女の衣装七度着更る。打掛、帯付と云、眼もまはゆき程也。先未曾有の盛会也。十時済。

十二月八日 己丑 日曜 晴。

午下早々、角田氏病を問ふ。昨日、来客に談話を過して本日ハ其為少し障りもありて面会せずして、榮子に逢て帰。それより村井氏を問ふ。新築落成にて所々方々を見せてもらふ。孝子母の病を問ふ。少しよろしきに迎ふ。しばらく咄して帰。東伏見宮様ニ参る。良君様、昨日より沼津御別邸え成らせられて御留守さま、糸島に逢て帰。

\*迎ふ(向ふ)

十二月九日 庚寅 月曜 晴。

課業例の如し。

書をよす、大口氏、織田、中村、石井、迹見。

十二月十日 辛卯 火曜 晴。

火曜稽古する。午下三時より、予、李子と同行、大武にて撮影する。芝万里さまえよ(寄)りて、五時より帝国ホテルへ行。佐々木和三郎、斯波輝子結婚披露会に出席ス。余興、狂言素袍落、長唄石橋、芳村、杵屋連中。九時畢而帰。

十二月十一日 壬辰 水曜 雪。

朝、陰。課業。豎詠草、朝九時より十二時迄三時間、先々畢。十一時頃より雪降り出して深雪となり一寸積る。勿にて銀世界となる。夜に入て八日月清く、雪月見事也。房州電報。

角田、歳末を贈る。

\*勿にて(忽にて)

十二月十二日 癸巳 木曜 晴。

雪後、勅題朝晴雪、御手本を出したる雪景也。

清浄世界きのふの雪に今朝の晴れ。

課業畢、漸勅題豎詠草かけたり。画の試筆ハ来一月の事。明十三日より試験ニかゝる。

橋岡、石井松子え。

十二月十三日 甲午 金曜 晴。  
金曜稽古納をなす。

(十二月十四日、十五日、記載ナシ)

十二月十六日 丁酉 月曜 晴。  
兵庫藤田え、浅田吉太郎え、石井初、織田静。

十二月十七日 戊戌 火曜 陰。夜、月光。  
火曜稽古納めする。来客、安田輝子、中野より正子、石神井市蔵 下婢照を連れて来る。

十二月十八日 己亥 水曜 満月。晴。  
昼早々、堀田伯え行。李子、大原伯え悔二行。大原伯え玉串三円。

(十二月十九日、廿一日、記載ナシ)

十二月廿二日 癸卯 日曜 晴。夕景より雨ふり出したり。  
朝十一時より閑院宮殿え参る。本日ハ宮様御誕辰に被召、御昼餐を贈はる。参殿之方々、黒田御夫婦、安藤御夫婦、三条千代子、藪夫婦、山尾夫婦、三条公輝、河鱈子、花房未亡人、某〔長崎〕夫婦、香川塩子、御用掛武官中島氏、別当也。御餐結構なる。余興、支那人の手しな面白く、四時頃一同退散。本日にて試験全畢。

\*贈はる〔賜はる〕

十二月廿三日 甲辰 月曜 雨。  
朝より雨にて、後雪に成りたり。積雪二寸計。

十二月廿四日 乙巳 火曜 晴。  
朝九時より終業式。正堂に校長をはじめ職員、生徒一同集り、校長の終業の式をのふ。主事、生徒成蹟を委敷伸て、李子よりも。一同式全畢。予ハそれより千駄ヶ谷田中氏え行、日暮帰。塾生一同帰。

\*成蹟〔成績〕

十二月廿五日 丙午 水曜 陰。夜に入てより雪になりたり。

十二月廿六日 丁未 木曜 晴。  
雪のあした、度々の活粉本ながら、雪の歌も句も画もおもふにまかせず、俗事にいそかし。  
武田氏。

十二月廿七日 戊申 金曜 晴。  
朝より揮毫もの、歳末贈答ものにて大いそかし。来客、安藤恭子様、宮原六之介。此夕より贈り物にて大困雑。小包物等にて大略出来上り、大安心々々。  
\*大困雑 (大混雑)

十二月廿八日 己酉 土曜 晴。  
朝より配り物致させたり。居間の来客続々。夕迄掃除。  
大坂跡見より鼈味噌曲着。

十二月廿九日 庚戌 日曜 晴。  
二階の掃除。本日ハ餅つき賑々し。  
大坂跡見え返事。名古屋や日比野え。  
\*名古屋 (名古屋)

(十二月卅日、記載ナシ)  
十二月卅一日 壬子 火曜  
先当年も無事に年を越えてたし。新年端書四百枚出す。

(挿入紙表)

大正七年一月より

- 竹田氏、一、二、三、四、五、六
- 九 日 富士見軒え 和慰会
- 十二日 浅草婦人会 角筈岩田氏にて
- 十六日 堀田伯え
- 十九日 午後五時 新年会
- 廿二日 火曜稽古始
- 廿三日 午後五時 帝国ホテル
- 三十一日 竹田氏
- 三十日 明々堂 三度目

(挿入紙裏)

一月十五日 初診

廿三日

二月二日

十二日

廿四日

三月三日

十七日

三十一日

竹田氏八度、四円也

明治廿六年三月三十一日 中村糸女

明治廿三年九月(ママ) 島居万之助

初診